

事務事業名	図書館協議会運営事務 ☐ 実施計画事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12446				
			所属課室	市立図書館		課長名	深澤知恵美				
			所属担当	楡形図書館		担当者名	望月 幸子				
基本政策	基本計画体系	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計 01	名称 一般	款 10	項 04	目 04	細目 05	細々目 009	
政策	22	生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金							
施策	35	生涯学習システムの推進									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 15 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）		法令根拠	図書館法 南アルプス市立図書館条例							
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 図書館法第14～16条の規定に基づき、教育委員会または図書館長の諮問に応ずるとともに、市民の図書館に対する要望や意見を、図書館運営に反映させる。委員は10名で任期は2年 ・協議会委員の任命 ・研修会の開催 ・年3回の会議の開催（通知文発送・準備・諮問事項の報告・会議の記録） ・山梨県公共図書館大会の参加（依頼文発送）			事業費の主な内訳（ 22年度 ）							
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
				委員報酬		177					
								計		177	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	南アルプス市公共施設再配置の方針における図書館の在り方について「諮問」に対して、答申書を作成し、教育委員会に提出する。
23年度活動予定	図書館評価をどのようにおこなうか協議する。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
図書館協議会委員	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
図書館の運営及び図書館サービスについて適切な意見を述べてもらう	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
図書館サービスの向上を図る	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	回数
ア	会議開催数
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	%
ア	委員の出席率
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	件数
ア	提言・意見・答申の案件数
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	回数
ア	市民一人当たり図書館利用回数

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	194	177	239	239	239	239	
	事業費計 (A)		千円	194	177	239	239	239	239	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	8	8	8	8	8	8	8	
		延べ業務時間	時間	65	64	60	60	60	60	60	
		人件費計 (B)	千円	290	286	238	238	238	238	238	0
		(A)+(B)		千円	484	463	477	477	477	477	0
活動指標		アイ	回数	3.0	4.0	3.0	3.0	3.0	3.0		
		ウ									
対象指標		アイ	%	80.0	72.0	75.0	75.0	75.0	75.0		
		ウ									
成果指標		アイ	件数	22.0	38.0	30.0	30.0	30.0	30.0		
		ウ									
上位成果指標		アイ	回数	1.7	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9		
		イ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	市立の図書館となった平成15年度より南アルプス市図書館協議会を設置する。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	社会の動向にあわせた図書館の在り方を検討し、市民の要望に応える図書館運営が求められている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	課題が山積しているので会議回数を増やしてはどうかという協議委員の意見もある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過（取り組みしていない場合はその理由）	南アルプス市立図書館長の諮問をうけて協議し「これからの南アルプス市立図書館のあり方について」の答申書を作成し、教育委員会に提出している。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	答申書作成のために予定より多く会議をもち協議した。

事務事業名	図書館協議会運営事務	所属部	教育委員会	所属課	市立図書館
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 図書館運営について、協議委員の意見や提言を聞く機会を得て、市民の生涯学習推進に結びつけている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 図書館法及び南アルプス市立図書館条例に基づき設置されたもので、市民の意見を公平な立場で生かすには妥当である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 協議委員から多くの意見を述べてもらい、図書館運営に反映させるには適切である。今後も、市民にとって身近な図書館となるよう協議委員の意見を反映していく。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 図書館に対する知識を深め、協議委員からの意見を図書館運営に反映させていく。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 市民の代表として図書館運営に対して意見を述べる機会を失う。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 協議委員の会議出席回数により報酬を支給している。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方・見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 協議会事務処理を一人で担当しているので削減の余地がない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 受益機会・受益負担に直接かかわる事業ではない。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	図書館の民主的な運営を考える際の指針の一つとなり、今後も実行性のある会を継続していきたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
①協議会委員が図書館に関する理解を深める。 ②会議内容を市民に知らせる。 ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
①協議員を対象とした研修会を開催し、知識を深めてもらう。 ②ホームページを使って協議会の検討内容を公開する。 ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑫</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑫	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑫																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					